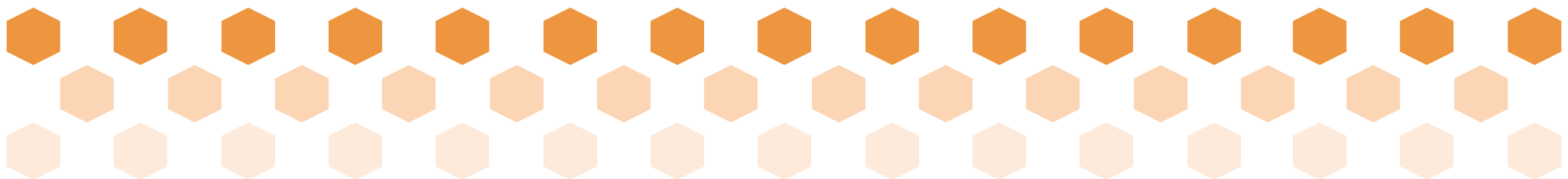


J A S の国際化に向けた取組について



2019年1月29日

農林水産省
食料産業局

JASの国際化に向けた取組

JASの基準・認証・マークが国際的に通用する環境に

JAS認証・マークの普及・活用拡大

- (JAS制度の信頼向上)
 - JASマークの商標登録
 - 国際的な認定機関の枠組への加盟 (FAMIC)
- (JASのブランド化・認証品増大)
 - イベント等を通じた打ち出し
 - JAS認証取得支援

- (二国間連携・協力)
 - ベトナム× **有機食品**
 - ・ ベトナム農業農村開発省と農林水産省の間で締結した覚書の下で、有機JASにかかる支援を実施
 - タイ× **そしゃく配慮食品**
 - ・ 円滑な貿易のため、そしゃく配慮食品JASと調和したタイの介護食基準制定に向けた支援を実施

国際標準化 (ISO/Codex)

- **機能性成分試験方法** のISOへの提案
 - ・ 高付加価値化のツールとして機能性成分を活用しやすい環境をつくるため、国内事業者が使い易い試験方法JASと調和したISO規格制定を目指す
 - ・ ISO/TC34 (食品専門委員会)において、日本が主導する検討の場を確立〔ルテイン (ほうれんそう)、リコペン (トマト)、プロシアニジン (リンゴ) 等〕
- **納豆** のCodexへの提案
 - ・ 他的大豆発酵食品との違いを明確にするため、納豆JASと調和したCodex規格制定を目指す

国際化を見据えた規格制定

➢ 国際化を見据えた規格制定

注) 破線は検討中のもの

有機食品	そしゃく配慮食品
人工種苗 水産養殖	機能性成分 試験方法
納豆	植物工場
ノウフク	…など

➢ 英訳版の整備

各国政府機関等との関係構築

国際規格策定の際での協力やJASの国外での浸透など今後の標準化活動の土台として、アセアン諸国等との信頼関係を戦略的に構築

➢ アセアン諸国の標準化当局等との関係構築

- ・ 相手国の訪問、各国からの招聘への対応、政府訪問の受入などを通じ、各国のカウンターパートと常時情報交換ができる関係を構築
- 〔2019年1月現在、タイ (科学技術省、農業協同組合省、保健省)、ベトナム (科学技術省、農業農村開発省)、インドネシア (国家標準化庁)、シンガポール (旧生産性規格革新庁)、カンボジア (工業・手工業省、農林水産省) 等計7カ国15機関と意見交換〕

➢ マルチの場を活用した信頼醸成と日本のプレゼンス向上

- ・ アセアンとの定期会合(AJCEP-STRACAPなど)や標準化機関会合(PASCなど)に参画し、関係者との信頼関係を深める

➢ アセアン地域の民間組織とのネットワーク構築とJASの浸透

- ・ 「日・アセアン連携による新産業人材育成事業」をはじめとしたODA等を活用し、アセアンの連携大学等とのネットワークを構築するとともに、寄付講座を通じJAS制度・試験方法JASに対する認知・理解向上を図る